

# 損保不払い

損害保険会社の保険金不払い問題が、拡大の兆しを見せている。不払い合計は大手5社だけでも12万件を超えたが、これは過去3年分だけ。契約者らがそれ以前の分について問い合わせたところ、各社とも新たな事例が判明した。相当数の不払いが潜在している可能性が高いが、損保側は資料の廃棄などを理由に、情報の公開や追加調査に消極的だ。

## 新たな事例判明 「過去3年分公表」以前で

最初の不払い発覚は2月の富士火災海上保険で、その前に行われた金融庁検査がきっかけだった。これを機に各社が社内調査を始め、20日までのまとめでは大手5社で12万1898件、52億7046万円に達した。各社は調査基準を資料の保存期間などを理由に過去3年に限ったが、契約者や事故被害者からの指摘で、ここにきてそれ以前にも不払いがあることが発覚した。1社当たりで数件、数十件で、数万件に上る3年以内分とは水準に開きはあっても、会社が本格的に調べていないという事情も大

きいと見られる。一連の不払いは多種多様な保険にまたがっており、「いつから起きていたのか、現時点ではわからない」（児玉正之・日本損害保険協会会長）。98年の保険料自由化で商品が複雑化したのがきっかけといわれるが、各社とも過去3年分より前にも大量の不払いが隠れている可能性は認める。本格的に調べれば、過去3年分に匹敵する件数が表面化する可能性が高い。

追加調査に  
各社消極的  
しかし、損保側は調査を今以上に広げることには消極的だ。支払い関係資料の保存期間が内規で3年のところが多く、「契約者からの申し出がないと社内では確認が難

しい」（東京海上日動火災保険）という。無料で電話相談を受け付けているものの、広告などで十分に周知を図っているとはいえない状態だ。これまで明らかになかった1件当たりの不払い金額も、各社は「平均では数万円」としているものの、自動車の搭乗者傷害保険では1千万円を超える事例があった。損保ジャパンは不払いの最高金額すら「高額な事例はごく一部。不注意によるもので、法令には違反していない」との理由で明らかにしないなど、契約者の不信を増幅しかねない対応が目立っている。

会社名	過去3年分の件数	それ以前の件数	1件当たりの最高金額
あい損害	2万9526	不明	1370万円
おいジャパン	2万7260	9	非公表
損保海上	2万5091	数	1000万円
三井住友損保	2万2087	数十	768万円
日本興亜日動	1万7934	数十	600万円

※過去3年分以前の件数は判明したものだけ